

再意見提出者	株式会社テレビ朝日
--------	-----------

意見項目	意見内容
(1)ワイヤレスブロードバンドの今後の展望	
(2)ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題(周波数の確保、国際標準化・研究開発の推進、利用環境の整備)	<p>地上デジタル放送への移行で利用休止となる周波数が即時活用されることが必要。その周波数資源については、毎年度ごとに電波利用調査による周波数アクションプランを作成し、中長期展望も含め有効利用方策が検討されたものであり、国民が真に利益享受できることが最優先に論じられるべきである。昨今の海外ハーモナイズの論点は海外系企業の日本における利潤追求のように見受けられる。過去に提案された UWA 技術の普及もいまだ未知数となっている。</p> <p>地上アナログテレビ放送をデジタル化移行し、新たな電波資源を確保する計画の途上であり、まずはアナログ跡地利用の有効利用を論じるべきと考察する。その上での新たな長期計画を慎重にすべきである。</p> <p>デジタルテレビジョン放送はあまねく国民の享受できるリッチコンテンツメディアである。そのハイビジョン番組を支える素材伝送無線においても品質の高い伝送能力を必要とする。特に UHF 帯 FPU は移動伝送での伝搬特性が他の帯域と異なり良好な無線素材伝送設備である。しかし、その伝送品質は開発途上であり、現在「電波資源拡大のための研究開発」がなされたこともあるので、ハイビジョン品質伝送が実現できるよう早急な制度等の改定を要望する。あわせて放送事業者全体や他事業者システム(特定ラジオマイク)と周波数共用で運用しているため、伝送路数の不足した状態でもある。</p>

<p>(3) 関連する国内外の動向と課題</p>	<p>公開ヒアリングなどでの意見について</p> <ul style="list-style-type: none"> 地上デジタルテレビジョン放送の利用チャンネルを 2012 年 7 月終了予定のリパック後も再リパックし更なる利用チャンネル削減の提案について。 <p>リパックは過去 10 年以上の長期にわたる検討計画のうでで実施したものであり、更なる帯域圧縮は相当の困難が想定される。地上デジタルテレビジョン放送のネットワークは緻密な計画の元に作成されたもので、単純な 1 局変更にとどまらず周辺影響局の連鎖変更が伴うものであり、短期間での周波数移行は不可能と言わざるを得ない。</p> 800MHz 帯 FPU を放送波ホワイトスペースや他の周波数へ移行させる提案について。 <p>ア) FPU などのホワイトスペース利用について</p> <p>現在 別の審議会で検討中でもあり、地域により周波数、エリアが特定されている状態ではない。スペースの有無を含めて検討されているものである。</p> <p>FPU の稼動範囲は全国であり、広範囲に及ぶ駅伝競走中継などで特定地域を超えるシームレスな周波数切り替え運用が必要となり、放送番組の中断を伴うこと。併せて、広帯域にわたる小型可搬無線設備の実現の可能性検討が必要で、現状はホワイトスペースでの運用は不可能と思慮する。</p> <p>イ) 他の帯域移行について。</p> <p>800MHz 帯 FPU は電波伝搬特質、設備形態から 700MHz～1GHz であれば利用案件を満足する可能性がある。ただし、特定ラジオマイクとの周波数共用で有効利用運用していること、全放送事業者での共用を十分考慮いただくことが必須である。また帯域内で使用事業者が異なる状態でもチャンネル間ガードバンドを設けない高効率周波数利用となっている。</p> <p>海外で 2GHz 帯利用の例があるが、いずれも伝播経路に障害物がない直線上に送受信機を設置した運用である。利用場所の看板や電線設置環境や上空域航空機等の利用環境が異なる中での運用であり、国内に即時に適用できるものではない。</p> 携帯電話周波数の国際ハーモナイズについて <p>国内携帯電話利用者からの要望が多数あるか判断材料が示されていない。単にデバイス供給側の利潤追求のみの要望のようにも見受けられる。各国事情で各々の国が地域での共通周波数を意識した利用計画をされるものと思慮する。地球規模の利用は UHF 帯ではなく衛星系を利用すべきである。</p>
<p>(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項</p>	<p>将来のトラフィック増大に対応すべくすでにアナログテレビ放送のデジタル化、3.4GHz 帯マイクロ固定回線の周波数移行など実施作業中であり、中長期での周波数利用計画にあっては限定された周波数域に限らない審議を要望する。</p>